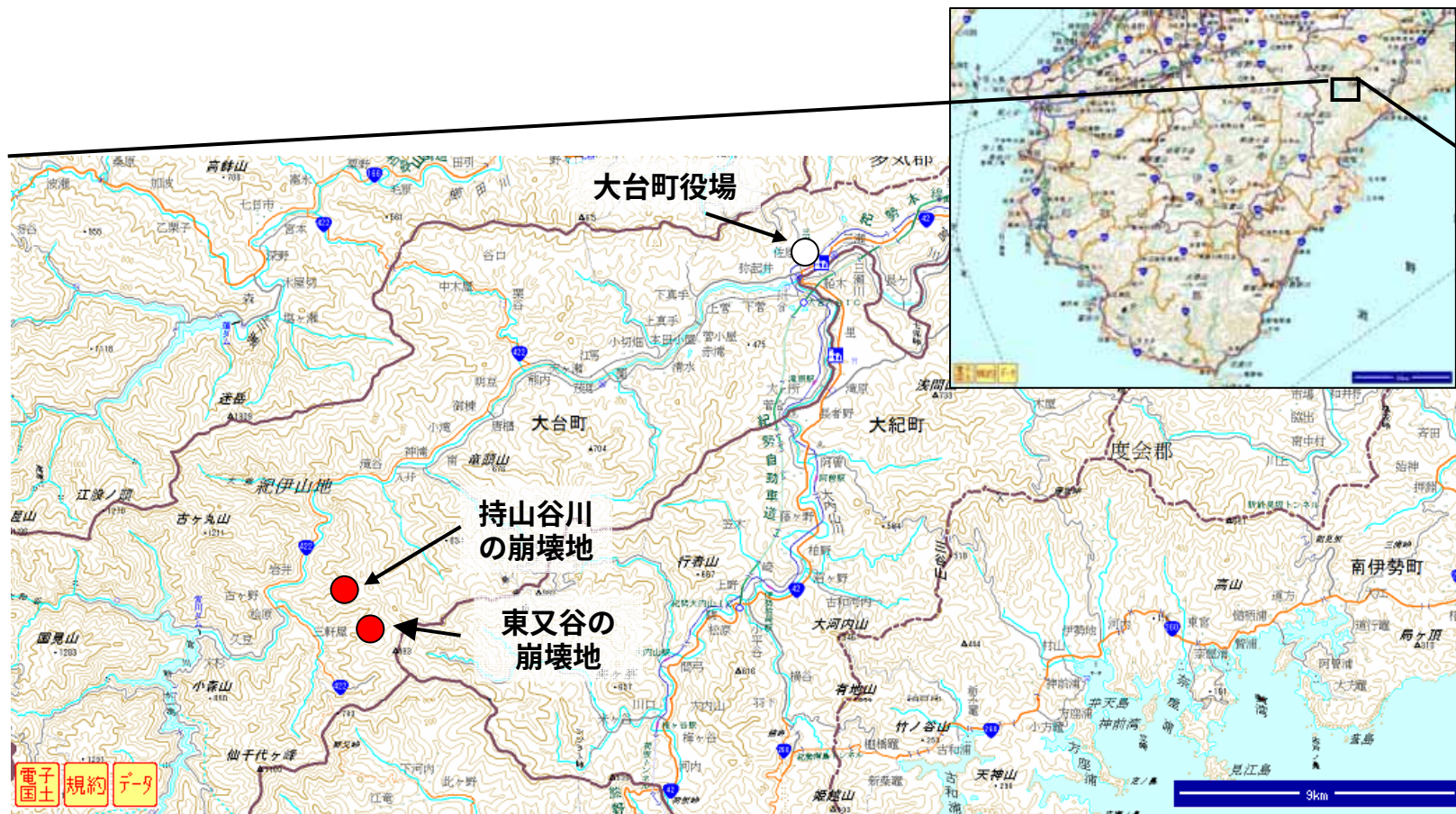


三重県大台町で発生した土砂災害の調査結果

調査日：平成23年11月4日、5日

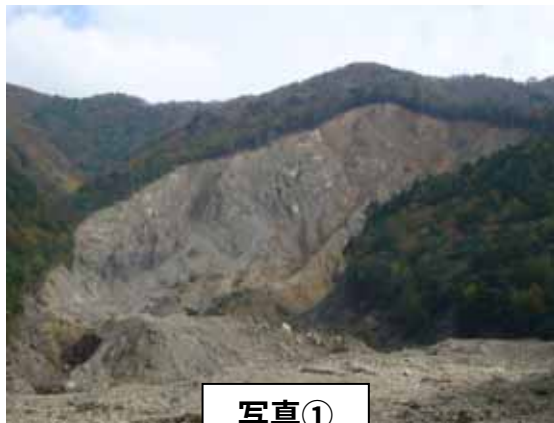
メンバー：(独) 土木研究所 土砂管理研究グループ 火山・土石流チーム
武澤研究員 他

場所箇所：三重県大台町桧原(きそはら)東又谷、岩井持山谷川



①東又谷地区調査結果

- ・桧原谷川流域における東又谷源頭部の左岸平行斜面で大規模な崩壊が発生した。
- ・簡易レーザー計測によると、崩壊幅約350m、崩壊地直下からの高さ約250m、崩壊斜面の勾配は約 30° 、崩壊深は最大約80mであった。
- ・崩壊土砂生産は崩壊地内中央～左岸側に見られる茶褐色の細流土砂（強風化した泥岩）と崩壊地右岸側に見られる砂礫～礫（砂岩・泥岩）に起因するものと考えられる。





②持山谷川地区調査結果

- 持山谷川源頭部の左岸斜面で大規模な崩壊が発生した
- 持山谷川では2004年9月にも崩壊が発生しており、今回も同じ左岸側斜面で発生していた。
- 簡易レーザー計測によると、崩壊幅約90m、崩壊地の高さ約230m、崩壊斜面の勾配は約30°、崩壊深は最大約35mであった。
- 崩壊土砂は強風化した茶褐色の泥岩が主体であった。崩壊地直下から約400m下流に不安定堆積土塊が現存するが、調査時点では右岸側山付け部分が掘れ込んで流路を成し、左岸側に不安定堆積土塊が残っていた。





・今回の崩壊で、下流区間を流下した土砂が宮川に流入し、対岸の国道422号線や集落に乗り上げるとともに、宮川本川を一時せき止めた。

・対岸の集落では、家屋に水・土砂が流入したが、住民は無事だった。また、崩壊土砂の流下によって、持山谷川出口付近では、(治山)谷止工袖部と堤体の一部が破損し、さらに、道路橋(持山橋)が流出した。

・近隣住民の聞き取りによると、崩壊土砂が宮川に突入し、被害が発生した時刻が9月4日の17時35分頃であった。

